

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで

定時株主総会 毎年4月

期末配当金受領株主
確定日 1月31日

中間配当金受領株主
確定日 7月31日

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.imura.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。)

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

1単元の株式数 100株

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)

株式に関する諸手続きについてのご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しております。



IMURA

第74期 報告書

2023年2月1日 ▶ 2024年1月31日

INDEX

- 1 株主の皆様へ
- 3 連結財務諸表
- 5 主要な経営指標の推移
- 6 IMURA コラム
- 7 トピック
- 9 株式の状況・所有者別状況
- 10 会社の概要・役員・事業所

証券コード3955

株主の皆様へ



代表取締役社長 井村 優

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第74期(2023年2月1日から2024年1月31日まで)の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を兼ね、事業の概況についてご報告申し上げます。

当社グループは、「潤創(じゅんそう)～社会と人生に潤いを創造する～」を新たな経営理念である「IMURA PHILOSOPHY STRUCTURE」の起点に掲げ、「変革とイノベーション(革新)により新たな成長軌道を実現し、企業価値の更なる向上を図ることにより全てのステークホルダーに最高の付加価値を提供する。」を基本方針とする3か年の中期経営計画「IMURA VISION 2030 Stage I」を2021年度よりスタートさせ、新生イムラの基盤づくりを、全社を挙げて進めてまいりました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の正常化やインバウンド需要により、概ね回復基調で推移いたしました。海外要因等による想定以上の物価上昇が個人消費や企業の設備投資に影響を及ぼしました。

当社グループの事業領域に影響を及ぼす郵便及びメール便の取扱数量は減少傾向が続いており、ダイレクトメール市場においても、広告業における「折込・ダイレクトメール」の売上高(経済産業省/特定サービス産業動態統計調査)が対前年比で下回るなど、社会のデジタル化進展による紙媒体の需要減少もあって、当社グループを取り巻く環境は厳しい状況で推移いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、販売数量の低下に加え、コロナ禍収束による特需の減少の影響もあり、208億69百万円(前期比4.0%減)となりました。損益面につきましては、材料価格高騰の影響を固定費の抑制で吸収するものの、減収の影響により、営業利益は13億5百万円(前期比8.2%減)、経常利益は14億13百万円(前期比9.4%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、投資有価証券売却益を計上する一方で、基幹システムの開発に係る減損損失や子会社における固定資産除却損等の計上もあり、9億50百万円(前期比6.5%減)となりました。

株主の皆様におかれましては、何卒、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年4月

パッケージソリューション事業

ワクチン接種券や統一地方選等のスポット案件が下支えとなるものの、社会のデジタル化の進展により、事務用封筒を中心に販売数量が減少したほか、軽包装材の市場投入に時間を要し、次年度からの売上貢献を余儀なくされたことや、ダイレクトメール等の受託が低調に推移したことから、売上高は153億31百万円(前期比4.0%減)となりました。損益面では、材料価格が上昇するものの、内製化推進による外注加工賃の抑制や固定費の減少により、営業利益は9億81百万円(前期比11.5%増)となりました。

メーリングサービス事業

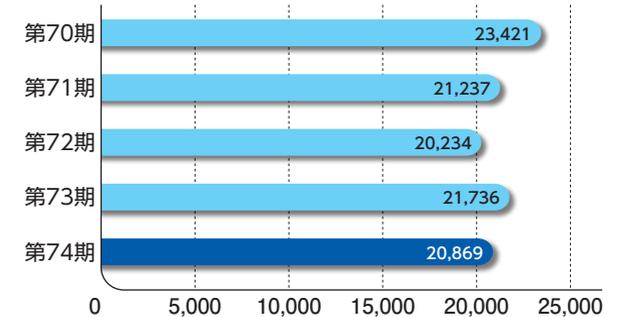
株主優待関連のサービスが拡大するものの、前期に発生した各種自治体向けの大口案件剥落の影響によるサービス加工の減収を主因に、売上高は38億17百万円(前期比7.3%減)となりました。損益面では、株主優待関連のサービス拡大に伴う商品仕入の増加で、売上総利益率が低下したこともあり、営業利益は2億75百万円(前期比48.2%減)となりました。

その他

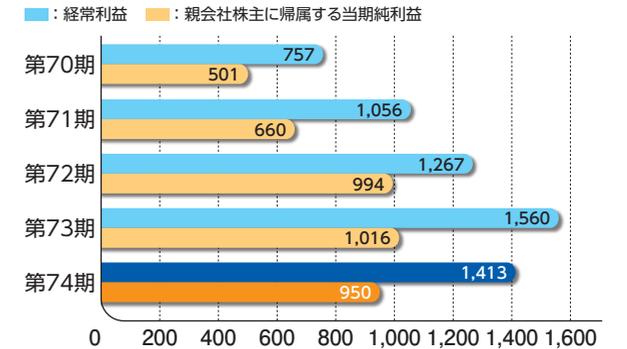
封入機の製造販売を手掛ける子会社及び情報システム事業が減収となるものの、医療機関向け印刷物を手掛ける子会社の売上が回復し、売上高は17億20百万円(前期比3.9%増)となりました。損益面では、医療機関向け印刷物を手掛ける子会社の生産機能の移管等、グループを挙げての効率化への取り組みが奏功したこともあり、営業利益は68百万円(前期比1,354.4%増)となりました。

財務ハイライト(連結)

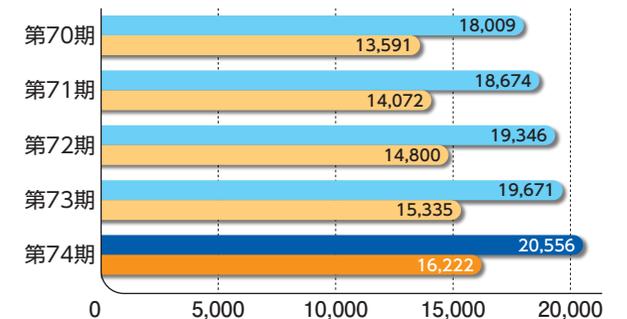
売上高(単位:百万円)



経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益(単位:百万円)



総資産・純資産(単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (2023年1月31日現在)	当期末 (2024年1月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,637	8,571
現金及び預金	2,764	3,144
受取手形、売掛金及び契約資産	3,249	2,977
電子記録債権	1,227	899
たな卸資産	1,260	1,415
その他	135	133
固定資産	11,033	11,984
有形固定資産	8,469	9,130
建物及び構築物	1,374	1,420
機械装置及び運搬具	1,651	2,171
土地	4,572	4,621
その他	871	917
無形固定資産	135	99
投資その他の資産	2,429	2,754
投資有価証券	1,107	1,100
その他	1,321	1,653
資産合計	19,671	20,556

資産の部

売上債権等が減少した一方で、機械装置の取得や、現金及び預金の増加により、資産合計は前期末に比べて8億84百万円増加し、205億56百万円となりました。

(単位:百万円)

科目	前期末 (2023年1月31日現在)	当期末 (2024年1月31日現在)
負債の部		
流動負債	3,826	3,701
支払手形及び買掛金	944	867
電子記録債務	939	937
その他	1,942	1,896
固定負債	508	631
負債合計	4,335	4,333
純資産の部		
株主資本	14,441	15,115
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,383	1,389
利益剰余金	12,309	12,960
自己株式	△ 450	△ 432
その他の包括利益累計額	842	1,059
その他有価証券評価差額金	339	392
退職給付に係る調整累計額	503	666
新株予約権	37	33
非支配株主持分	14	15
純資産合計	15,335	16,222
負債純資産合計	19,671	20,556

負債の部

流動負債が減少する一方で、固定負債が増加したことにより、負債合計は前期末からの大きな変動はなく、43億33百万円となりました。

純資産の部

利益剰余金等の増加により、純資産合計は前期末に比べて8億86百万円増加し、162億22百万円となりました。
なお、自己資本比率は同1.0ポイント上昇して78.7%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2022年2月1日から 2023年1月31日まで)	当期 (2023年2月1日から 2024年1月31日まで)
売上高	21,736	① 20,869
売上原価	15,978	15,261
売上総利益	5,757	5,608
販売費及び一般管理費	4,335	4,303
営業利益	1,421	1,305
営業外収益	155	124
営業外費用	16	15
経常利益	1,560	1,413
特別利益	64	② 161
特別損失	134	151
税金等調整前当期純利益	1,490	1,423
法人税、住民税及び事業税	411	418
法人税等調整額	61	53
当期純利益	1,017	951
非支配株主に帰属する当期純利益	1	0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,016	950

① 売上高

デジタル化の進展による封筒需要の減少や、自治体向けメーリングサービスの大口剥落などにより、売上高は前期比8億66百万円減の208億69百万円となりました。

② 特別利益

保有する投資有価証券の売却により、特別利益は前期比97百万円増の1億61百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2022年2月1日から 2023年1月31日まで)	当期 (2023年2月1日から 2024年1月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	807	1,968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,338	△ 1,243
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 694	△ 314
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,224	411
現金及び現金同等物の期首残高	3,861	2,636
現金及び現金同等物の期末残高	2,636	3,047

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の収入は19億68百万円となりました。これは主に、資金の増加要因として税金等調整前当期純利益14億23百万円、減価償却費6億81百万円、減損損失97百万円、資金の減少要因として法人税等の支払額4億2百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

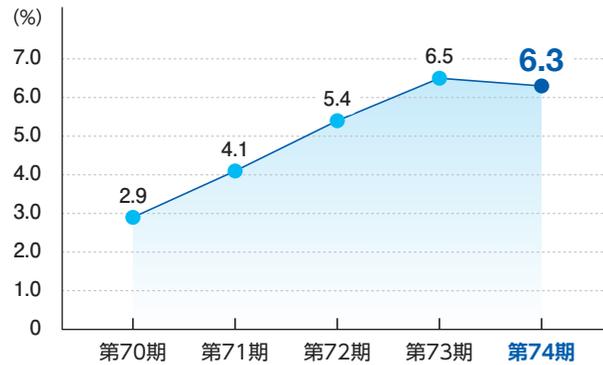
投資活動による資金の支出は12億43百万円となりました。これは主に、資金の増加要因として投資有価証券の売却による収入2億35百万円、資金の減少要因として有形固定資産の取得による支出14億1百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

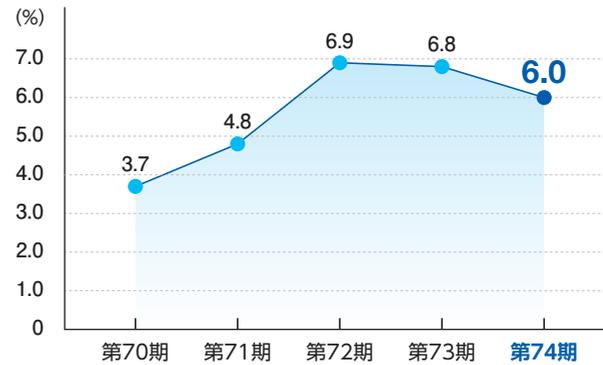
財務活動による資金の支出は3億14百万円となりました。これは主に、配当金の支払額2億99百万円、長期借入金の返済による支出10百万円によるものです。

主要な経営指標の推移

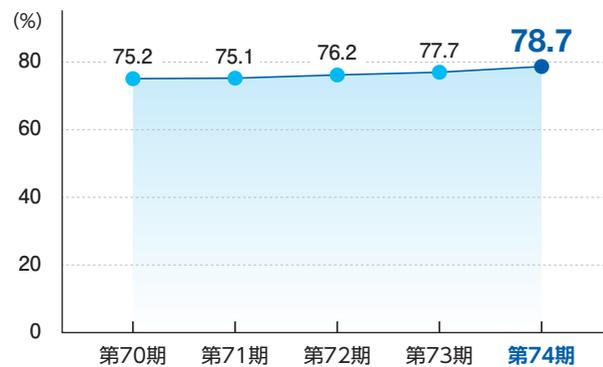
売上高営業利益率



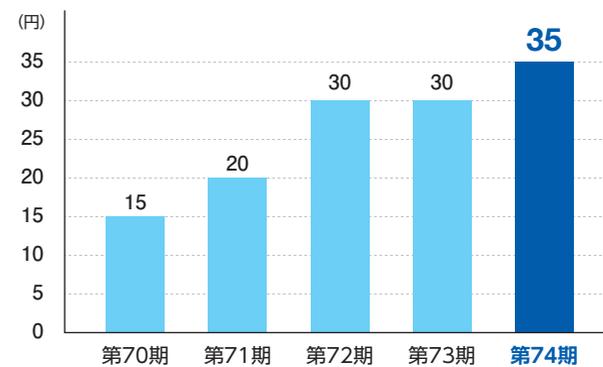
ROE(自己資本利益率)



自己資本比率



1株当たり配当金



配当金について

利益配分は企業経営にとって最重要事項のひとつとして認識しております。配当に関しましては、業績動向・財務状況・将来のための投資に必要な内部留保などを総合的に勘案したうえで、配当性向30%を基準に決定することを基本としております。当期の期末配当につきましては、上記方針に加え、純利益の進捗状況も勘案いたしました結果、次のとおりとさせていただきます。

▶ 期末配当金 … 1株につき 35円

▶ 期末配当金支払開始日 … 2024年4月26日

IMURA コラム

コミュニケーション上手な
生きものたち

第2回

言葉をあやつるシジュウカラ

感情や意思を伝達する「言語」は、人間だけの独自のコミュニケーション方法だと考えられてきました。ところが、東京大学先端科学技術研究センター准教授で動物言語学者の鈴木俊貴氏は長年の研究で、シジュウカラという鳥が言葉をあやつっていることを解明しました。

オウムなどが「おはよう」と言葉を発しているのは、人間の言葉を真似ているだけで意思を伝えようというものではありません。イヌやネコの鳴き声も喜びや恐怖といった感情を表しているもので、「単語」を組み合わせて「文」を作る能力は人間にしかないと考えられていました。

ところが、鈴木俊貴准教授は学生時代に、シジュウカラの1羽が「ヒーッ」と鳴いて、仲間にタカが存在を知らせたことに気づきました。その後、同じ天敵でもヘビには「ジャージャー」と鳴くを見て、ヘビのレプリカを「見せる」、録音し

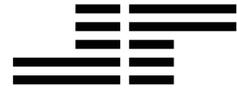


ておいた「ジャージャー」という鳴き声を「聞かせる」、さらには鳴き声を聞かせながらヘビに似た木の棒を動かすとどう反応するかを観察する「サーチイメージ」という実験で、「ジャージャー」がヘビのことを指していると特定しました。また、天敵に立ち向かうために群れを作りたい時には「ピーツピ(警戒しろ)、ヂヂヂヂ(集まれ)」と2つの単語を組み合わせ文にしていることもわかりました。十数年の研究の結果、シジュウカラは20以上の単語を組み合わせ、200を超える文を作っているところまで解明されています。

さらに驚くべきことに、シジュウカラの言葉を他の小鳥たちも理解しているというのです。落葉する冬、タカなどから身を隠しにくくなることや餌を探すのに協力し合うため、シジュウカラやコガラ、ヒガラといった鳥は一つの群れ(混群)を作りますが、お互いの鳴き声の意味を共有していることがわかりました。シジュウカラの「ヂヂヂヂ」の代わりにコガラの「ディーディー(集まれ)」を聞かせても同じ行動をとることが確認されています。

トピック

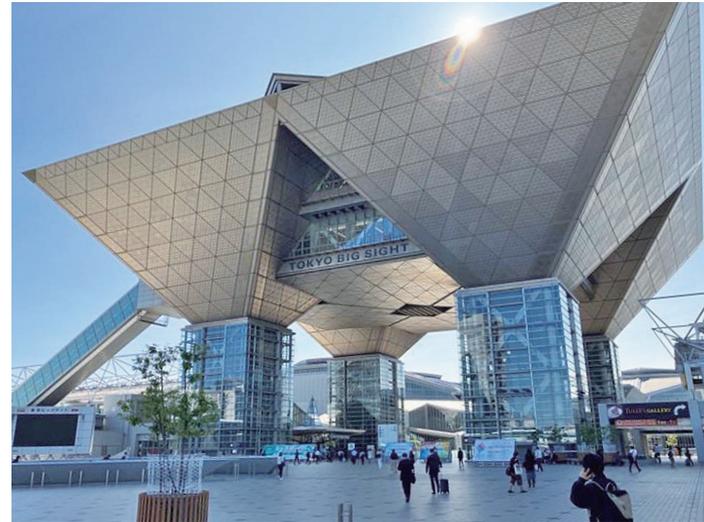
JAPAN PACK 2023 (日本包装産業展) に出展いたしました。



JAPAN PACK 2023

当社は、2023年10月3日～6日に、東京ビッグサイト(東展示棟)にて開催されたJAPAN PACK 2023(日本包装産業展)へ出展いたしました。

JAPAN PACKは、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬品・化粧品・日用品製造機器、物流機器、それらに関連する技術・サービスを展示公開し、産業合理化と国民生活の向上に寄与するとともに貿易の振興を図り、包装関連業界並びに需要業界の発展を通じて、より良い社会の実現に資することを目的に開催される展示会です。



紙パッケージ



展示の様子



当社は、

- ①紙化ソリューションを、多くの企業に発信する。
- ②充填・封入ソリューション提供企業への転換を起こす起爆剤とする。
- ③ソリューション変革をメーカーと伴走したい直販企業と繋がる。

ことを主な目的とし、今回のイベントに「軽量ECパッケージ」「紙パッケージ」「機械封入充填」を展示いたしました。

イベントが始まると、全国各地から多くのお客様が当社ブースに来訪され、有益な情報交換を行う場に行うことができました。

お客様の中には自社商品パッケージを持参し、「この商品で紙パッケージを検討したい」と相談に来られた方や、「ビニール→紙」だけではなく「箱→袋」など、具体的なご要望を持ったお客様が多かったこともあり、会場でのコミュニケーションは非常に実りあるものとなりました。

株式の状況・所有者別状況

株式の状況 (2024年1月31日現在)

発行可能株式総数 **38,000,000株**

発行済株式の総数 (自己株式 697,753株を含む) **10,729,370株**

株主数 (前期末比193名減) **2,832名**

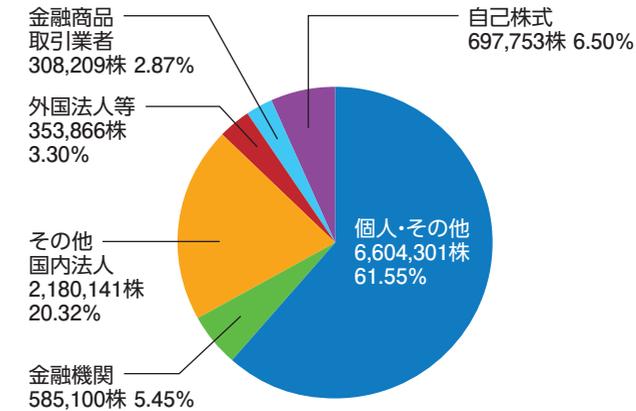
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
イムラ社員持株会	597,652	5.95
井村 優	452,500	4.51
有限会社ケイ・アンド・アイコーポレーション	385,250	3.84
有限会社アイ・エム興産	358,750	3.57
井村 美和	318,000	3.16
井村 光一	307,400	3.06
井村 達男	302,000	3.01
日本紙パルプ商事株式会社	300,000	2.99
井村 美保子	272,500	2.71
イムラ取引先持株会	272,200	2.71

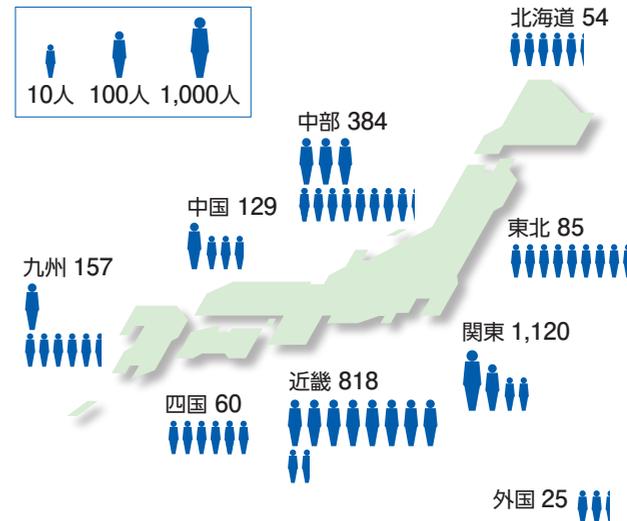
(注) 1.当社は自己株式697,753株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
2.持株比率は自己株式数(697,753株)を控除して算出しております。

所有者別状況 (2024年1月31日現在)

所有者別分布表



地域別分布表



会社の概要・役員・事業所

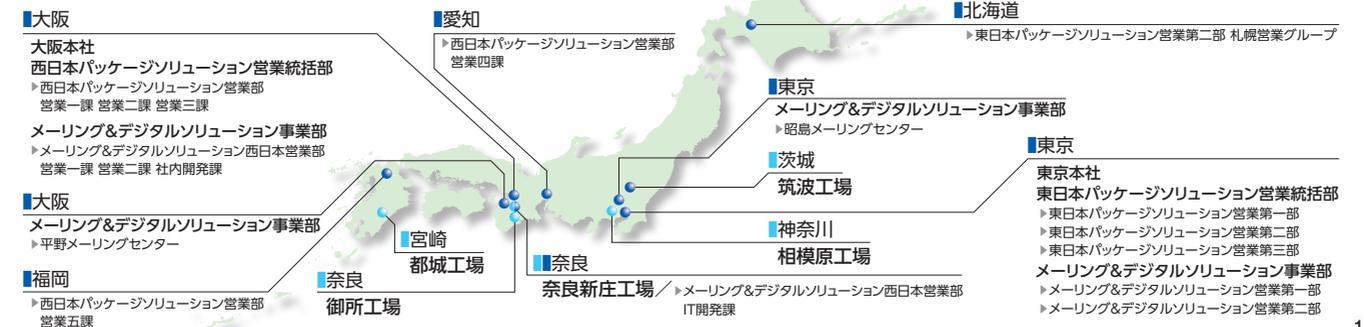
会社の概要 (2024年4月25日現在)

商号	株式会社イムラ (英文名:IMURA & Co., Ltd.)
本店	〒542-0076 大阪市中央区難波五丁目1番60号 なんばスカイオ18階 電話(06)6586-6121(代表)
創業	大正7年7月
設立	昭和25年2月
資本金	1,197,986,033円
事業内容	1.封筒、袋などの紙製品、文具の製造、販売及び事務用品、日用雑貨品の販売 2.不織布、合成樹脂シートを素材とする封筒、袋類、建築・造園資材の製造、販売 3.印刷物などの物品の保管、封入、包装、梱包及び発送業務の代行 4.運送、倉庫業 5.印刷、封入及び包装用機械の企画、研究開発、製造、販売及び輸出入 6.ダイレクトメールの発送及び請求書の発行等に関する情報処理業務の受託 7.広告代理業務 8.コンピュータ及び周辺機器、事務用機器の販売、教育指導及び保守管理 9.コンピュータソフトウェアの企画、開発、制作、販売及び保守管理 10.インターネットへの接続サービス業務 11.電気通信工業 12.医療用事務機器及び資材の販売 13.セミナーの企画、立案、制作、幹旋及び運営 14.前記各号に付帯する一切の業務

従業員数 連結 779名 単体 664名 (2024年1月31日現在)

子会社 東杏印刷株式会社 株式会社メトロテック 株式会社イムラプリンティング 株式会社ロジテック

事業所 (2024年4月25日現在)



役員 (2024年4月25日現在)

代表取締役社長 最高経営責任者(CEO)	井村 優
代表取締役副社長 最高執行責任者(COO)	瀧口 齊
取締役専務執行役員	吉川 伸昭
取締役常務執行役員	和田 寿一
取締役相談役	井村 守宏
社外取締役	白田 敬
社外取締役	城谷 満江
社外取締役	田中 公子
常勤社外監査役	知念 等
社外監査役	成瀬 圭珠子
社外監査役	城 知宏
上席執行役員	炭家 裕之
上席執行役員	森田 旭
上席執行役員	松本 哲明
執行役員	奥谷 勇二
執行役員	中塚 陽
執行役員	清田 隆利
執行役員	田村 哲也
執行役員	伊東 慶太
執行役員	桐間 秀昭